本場ペルーへ ケーナ留学

プロ目指す美和出身の木村さん

県協会が3ヵ月派遣

岩国市美和町出身でプロのケーナ奏者を目指す木村嶺汰さん（23）＝川崎市＝が14日から3カ月間、本場の南米ペルーへ「武者修行」に旅立つ。県ペルー協会の支援で初めて現地を訪れる木村さんは「音と歴史を肌で感じ成長したい」と意気込む。（橋原芽生）

県ペルー協会の行事に参加しケーナを演奏する木村さん

ケーナは南米発祥の縦笛。唇の形や吹き込む息の量で音程が変わる繊細な音が特長。日本人のペルー移住120年を記念し協会が派遣を決めた。協会関係者の家に泊まり、現地の演奏者を訪ね本場の音を学ぶ。学校や路上での演奏も予定する。

祖父母と暮らしていた美和東小4年生の時、ケーナの演奏が趣味の祖父から教えられたのが出合い。「いつも自然と吹いていた」と振り返る。CDの演奏を聴くなどで練習を繰り返し学校や地域行事に参加し演奏した。

14歳で妹の莉那さん（20）と南米民族音楽フォルクローレのデュオ「YAMA（ヤマ）」を結成。祖父に連れられ各地のイベントでステージに立ち、ペルー大使館（東京）で演奏したこともある。

18歳の時、「違う世界を知りたい」との思いから岩国高坂上分校を中退、父の住む川崎市へ。演奏から一時離れたが「フォルクローレを聴く若者がほとんどおらず、魅力をもっと知ってほしい」とケーナを再び手にした。

今回の修業のため勤務する広告会社を休職。木村さんは「いつかはケーナで生活できるように」と語る。

金魚ちょうちん なぜ柳井に？

住民団体 あす弘前から講師

金魚の民芸品を交流の契機に―。柳井市に伝わる金魚ちょうちんの由来を学ぶ講演会が10日午前10時、柳井市中央の柳井グランドホテルである。発祥地の青森県弘前市から講師を招き、両市の観光交流につなげる。

「北前船と金魚ちょうちん」と題し、弘前文化財保存技術協会の今井二三夫代表理事（71）が講演。江戸幕府への献上品だった弘前藩の金魚を、庶民の目に触れるよう、あんどんにした金魚ねぷたが始まりとされる。幕末に北前船で広まり、柳井で染物屋熊谷林三郎が作って現在に伝わる。今井さんはこうした歴史を解説する。

会場に飾る柳井市の金魚ちょうちん㊧と弘前市の金魚ねぷた㊨を手にする木阪さん

柳井市では観光名所白壁の町並みなどを彩る金魚ちょうちん。柳井と金魚の関係を疑問に思う観光客は多く、住民団体「柳井市白壁の町並みを守る会」が発足40周年を記念して企画した。会員の木阪泰之さん（56）は「観光面で弘前と協力するなど、柳井の活性化になれば」と話す。無料。☎0820（22）0150。（堀晋也）

献血

11日＝※岩国市南岩国町、ゆめタウン南岩国（9・30～12、13・15～15・30）▽※下松市南花岡、サンリブ下松（10～12、13・15～16）

12日＝※防府市寿町、市役所（9・30～12、13・15～16）

13日＝※柳井市南町、柳井警察署（9・30～12）▽※同市中央、JA南すおう柳井支所（14～16）

14日＝※周南市徳山、周南警察署（9～12）▽※同市宮の前、新南陽市民病院（14～16・30）▽※山口市陶、山口日野自動車（9・30～10・30）▽※同市維新公園、山口トヨペット本社（12・30～14）▽※同市黒川、山口リハビリテーション病院（15～16・45）

16日＝※岩国市室の木町、フレスタモールカジル岩国（10～12、13・15～16）

17日＝※周南市青山町、ゆめタウン徳山（9・30～12、13・15～16）

【注】かっこ内は時間、※印は400ミリリットル限定。

予定は突然、変更になる場合があります。確認・問い合わせは県赤十字血液センター☎0083（922）8001。

掲示板

岩国

全日本交通安全協会などは長年にわたって交通事故防止に努めたとして、岩国市小瀬の藤本昭洋さん（78）と同市玖珂町の善岡英さん（76）、中電工岩国営業所（同市今津町）を

岩柳

岩国総局 ☎0827（21）6780 FAX（21）7745
柳井支局 ☎0820（22）0247 FAX（24）0012
玖珂支局 ☎0827（84）0256 FAX（83）0001
大島支局 ☎0820（72）0212 FAX（79）0005
身近な情報をお寄せください

周南・山口

徳山動物園の写真コンテスト

19作品が入賞

24日表彰 4月1日まで展示

徳山動物園（周南市）は8日、園内の魅力をカメラかスマートフォンで撮影して広く発信する写真コンテスト「写真王」（中国新聞防長本社など協賛）の入賞作品19点を発表した。2部門があり、市内を中心に計244点が寄せられた。応募作品を9日から4月1日まで同園展示館に並べる。

カメラ部門のグランプリは周南市の公務員有馬正治さん（47）の「しっかり持っててよ」。同園のフライトショーで子どもが手にしたフラフープをくぐるワシミミズクを撮った。スマホ部門は光市の会社員渡辺祐子さん（29）の「ペンギンのおくち」。プールで潜るペンギンが目を見開き、水泡を出す瞬間を捉えた。

特別賞は10点。中国新聞防長本社賞には、スマホ部門から横浜市の主婦小野良枝さん（41）の「りんご、ここにあるよ！」が選ばれた。幼児がガラス越しにレッサーパンダと向き合い、会話をしているかのような様子を切り取った。

表彰式は24日に同園展示館で開く。（村上昭徳）

他の入賞者は次の皆さん。（敬称略）

カメラ部門【準グランプリ】福田和紀（周南市）【特別賞】高津貴子（柳井市）西山由美、末冨勝義、一柳敬行（以上周南市）原田明美（防府市）【入選】真本麻喜（下松市）西川敏弘（神戸市）

スマホ部門【準グランプリ】国貞裕介（防府市）【特別賞】志村敦之（岩国市）村中結奏（周南市）古谷茉莉（光市）福山利江（防府市）【入選】河合直美（さいたま市）岡村英敏（周南市）三崎珠美（下松市）

カメラ部門グランプリ「しっかり持っててよ」

スマホ部門グランプリ「ペンギンのおくち」

中国新聞防長本社賞「りんご、ここにあるよ！」

平生に新しい「風景印」

町郵便局が公募 風車やカブトガニ

平生町郵便局の新しい風景印㊧と元の風景印

平生町郵便局が、町内の名所などの絵柄入り消印「風景印」を更新した。風景印が押された手紙を広める活動に取り組む松浦慎治さん（54）が発起人となり、通常は局員が考える図案を一般公募。松浦さんは「温かみある手紙とともに、平生の新しい姿が全国に伝われば」と話している。

新しい図柄は、1994年開通の南周防大橋を中心に、2004年にできた風車や近年平生湾で増えるカブトガニなどを盛り込み、5日に使用開始。切り替えに伴い、同局に500件以上の押印申し込みがあったという。

大星山展望台や町木黒松をあしらった元の図柄は95年制作。町の風景も当時と変わったため、2年前に松浦さんが変更を提案し、町と同局が全国的にも珍しい一般公募を始めた。全国から17点の応募があり、金沢市の女性の作品が「バランスが良い」と選ばれた。

窓口に手紙を持参して依頼すれば押印してもらえる。同局の中畔正樹局長（57）は「良い絵柄をいただけた。郵便の振興にもつながれば」と笑顔。松浦さんは「時代に合った地元の魅力や手紙の良さを広めたい」と話している。（堀晋也）

《岩国錦帯橋空港発》
行先 社名 便 発時 10 11 12 13 14 15 16
日貨 水 木 金 土
春日全 △
会 続 無 表
通 続 表